

# ホワイトニングが及ぼす社会的心理的影響と歯科保健行動変容への教育的効果

著者	氏橋 貴子, 八木 孝和, 福田 昌代, 西保 亜希, 吉田 幸恵
雑誌名	神戸常盤大学紀要. 別冊
号	16
ページ	26-26
発行年	2023-03-31
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1492/00001189/">http://id.nii.ac.jp/1492/00001189/</a>

## ホワイトニングが及ぼす社会的心理的影響と歯科保健行動変容への教育的効果

氏橋 貴子<sup>1)</sup>

八木 孝和<sup>2)</sup> 福田 昌代<sup>1)</sup> 西保 亜希<sup>2)</sup> 吉田 幸恵<sup>2)</sup>

【目的】近年、若年者の歯のホワイトニングに対する関心が高まっているが、ホワイトニング処置後、白くなった歯を維持しようと口腔内への関心が高まることから、歯科保健行動変容にも繋がるのではないかと仮説を立てた。本研究は、ホワイトニングが及ぼす心理社会的影響と口腔への関心度に対する教育効果を検証することである。

【対象および方法】本学歯科診療所で研究同意が得られた学生 37 人に対し、ホワイトニング処置前、処置後 4 週間に心理社会的影響に関する質問事項と口腔内診査を実施し、その結果について比較検討を行った（神常短研倫 21-5 号）。

【結果および考察】ホワイトニング処置後、心理社会的影響に関する質問事項のうち、「自分の歯への自信」「社会的影響」「心理的影響」の 3 項目で有意差が認められた。ホワイトニングで自分の歯が白くなったことによって、審美的満足度が上昇し、自己肯定感が高まったことが要因だと考えられる。歯みがき回数や時間には変化がみられなかったが、PCR の平均値が 10.0%減少した。ホワイトニング処置後、白くなった歯を維持しようと自分の口腔内に関心を持ち、丁寧にブラッシングをおこなったからなのではないかと考えられる。

【結論】ホワイトニングが心理社会面に影響し、自己肯定感と口腔への美意識が高まり、口腔清掃状態も改善したことから、ホワイトニングにより教育的効果があることが示唆された。

---

1) 神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科 2) 保健科学部口腔保健学科